



しょうがっこうていがくねん《1・2年生》のみなさんへ

ふゆ休みおすすめ本リスト

登別市立図書館 [2016年版]

	しよめい さくしやめい しゅっぱんしや	ないよう		しよめい さくしやめい しゅっぱんしや	ないよう
えほん	<p>「トントンをまぢましよう」</p>  <p>あまん きみこ 作 鎌田 暢子 絵 ひさかたチャイルド</p>	<p>ゆきがふってきたゆうがた、あわててお母さんが「あまざけ」をたくさんつくりはじめました。すると、しらない子どもたちがつぎからつぎへとおうちへやってきました。ほら、まただれかがげんかんのドアをトントントン…。</p>	としよ	<p>「ねえ、おはなしきかせて」</p>  <p>原 京子 作 高橋 和枝 絵 ポプラ社</p>	<p>さいきん、おとうとが生まれていそがしいママは、ゆかにおはなしをよんでくれなくなりました。ある日、ゆかが森でこえを出して本をよんでいると、どうぶつたちがあつまってきた…。</p>
えほん	<p>「風来坊の子守歌」</p>  <p>川端 誠 作・絵 BL出版</p>	<p>せんそうの中、おやとはぐれた子どもをたすけた風来坊は、その子を「風(ふう)」と名づけて、いっしょに、おやさがしのたびをすることになりました。二人は、まるでおやこのように、心をかよわせていきますが…。</p>	としよ	<p>「ていでん★ちゅういほう」</p>  <p>いとう みく 作 細川 貂々 絵 文研出版</p>	<p>かみなりのこわい音がゴロゴロ！バリバリ！とでっかくひびいて、でんきがきえました。いつもいぼっているおねえちゃんなのに、ぜんぜんたよりになりません。ていでんよるに、かいちゅうでんとうをもって立ちむかう、小さなぼうけんものがたりです。</p>
えほん	<p>「ほんとに本はやくにたつ」</p>  <p>クロード・ブージュン 文・絵 末松 氷海子 訳 セーラー出版</p>	<p>うさぎのきょうだい本にむちゅうになっていると、キツネがやってきて、ぜったいぜつめい。でも、本にはもうひとつのつかいかたがあったのです。ほんとに、本はやくに立ちます！</p>	としよ	<p>「ゆきの中のふしぎなできごと」</p>  <p>ぼくはめいたんてい(6) マージョリー・W.シャーマツ ぶん マーク・シーモント え 光吉 夏弥 やく 大日本図書</p>	<p>めいたんていとしてみんながみとめるネートは、9さいの男の子。おともだちのロザモンドがネートにくれるはずだったたんじょう日プレゼントが、きえてしまいました。さがそうとしたネートに、ロザモンドはどうしてもプレゼントのなかみをおしえてくれなくて…。</p>
えほん	<p>「きみがしらないひみつの三人」</p>  <p>ヘルメ・ハイネ 作・絵 天沼 春樹 訳 徳間書店</p>	<p>三人は、きみの体の中で、生まれたときからはたらいしています。人が生まれてしんでいくまで、あたまと心と体が、どんなふしぎなはたらきをしているのか、やさしくえがいています。</p>	としよ	<p>「てぶくろのふたご」</p>  <p>二宮 由紀子 作 フィリケ えつこ 絵 理論社</p>	<p>ふたごのてぶくろは、リリカちゃんとおでかけするのが大すきです。気よわなマフラーや、なべつかみみたいなミトン、いろんななかまと出あいます。ふゆのおでかけが、たのしみになる本です。</p>
えほん	<p>「おいしいほしがき」</p>  <p>おばあちゃんと つくったよ！ 細川 剛 写真 宇部 京子 文 ひさかたチャイルド</p>	<p>そのままではたべられないしぶいかきを、あまくておいしいほしがきにかえるやりかたは、むかしからのちえがたくさんつまっています。いわてけんのほしがきづくりを、しゃしんでしょうかいています。</p>	としよ	<p>「よだかの星」</p>  <p>宮沢 賢治 作 村上 康成 絵 岩崎書店</p>	<p>つよいタカからおどされ、よだかはとてもこわくなってしまいました。いつもじぶんがたべている虫も、おなじ気もちでいたのかもしれないと、かなしくなったよだかは、おほしさまにおねがいをしました。</p>